



碩豪学園在り

RAKUNO GAKUEN



Green Stage

「雪化粧した白樺並木を歩く」

Vol.104
2005.1.15

聖句

【動物記念祭礼拝より】

「神はノアと、箱舟の中にいたすべての生き物と、すべての家畜とを心にとめられた。」

(創世記 8章1節)

新年のあいさつ

環境システム学部3学科体制のスタート



理事長 平尾 和義

新年明けましておめでとうございます。

昨年は全国的に、猛暑、台風、地震とかつてない自然災害が相次ぎ、各地に大きな被害をもたらしましたが、皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。被害に遭われた皆さま、ご家族の方々に心よりお見舞い申しあげ、一日も早い復旧をお祈り致します。

「競争」と「評価」の時代

学園は70年という節目の年を過ぎ、その歴史や教育内容、教育理念を基に整備されてきた広大なキャンパス等、全国的にも類のない教育機関として大きな発展を遂げ、学生生徒が学び、社会的貢献への志向性を身につける上で、優れた教育環境といえます。北海道あるいはキャンパスの美しい自然と、教育理念の支柱である三愛精神、健土健民、実学教育は、時代を超えた今日こそ重要な意味を持っています。

一方で、いま教育を取り巻く問題が論議され、国全体の構造改革、規制緩和の嵐の中、国公立私立を問わず教育改革がますます迫られています。特に私学が直面する状況は一層厳しく、「競争」と「評価」の時代に入り、私学には確固たる経営基盤と、次の世代の人材育成と人間形成に大きな役割を果たすことが求められ、本学も数々の課題を課せられた新しい教育への大きな改革が迫られています。最も大切なのは、創立者の建学の精神に基づき、特色ある教育機関として時代や社会の厳しい評価に耐え、その期待とニーズに十分応えられる教育研究の内容と質を維持できるのか、教育の中身が問われる時代

になったことです。この大競争時代に、建学の理念を単なるスローガンとしないためにも、恵まれた環境や伝統に頼って入学者を獲得するだけの学園であってはなりません。

環境システム学部3学科体制へ

学園はこのような中で、教育を取り巻く経営環境の厳しさ、時代や社会の変化に伴う本学に寄せる期待への高まりを深く認識し、現在教育財務中期計画を進め、教育組織の再編や制度改革に取り組み、一層教育の質的向上に鋭意努力しています。その第一段階として、大学では'05年4月に向けて環境システム学部を改組し、新たな2学科を設置。本学の特色をさらに発揮し、教育理念をいかに現代に生かすかを考えつつ、専門教育を推進しようとしています。

環境システム学部は設置以来、人文・社会科学と自然科学学際領域の総合的環境科学の確立と人材育成を目指し、教育研究を推進してきましたが、現行2学科体制では自然科学領域の比重が少なく、環境問題への具体的アプローチが不十分なため、学部全体としてバランスのとれた総合的環境科学の確立と人材育成を目指し、**【生命環境】【地域環境】【環境マネジメント】**3学科体制に再編しました。生命環境学科は新たな自然科学系学科となり、自然科学的手法で自然や生態系の環境問題解明を軸に、生命や自然の健全な体系創出と、これに役立つ有為な人材育成を目指します。環境マネジメント学科は経営学系として、学科名称と内容を改め、新しい時代の産業や企業活動をマネジメントする能力を育て、環境に配慮

した産業、企業のあり方を追求し、エコビジネスの進展を見据えながら、産業社会の健全な体系を構築する有為な人材育成を目指しています。

食、生命、環境を教育研究領域とする大学では、この環境システム学部の再編によって、酪農学部、獣医学部、さらには短大部の教育研究の連携と向上に相乗効果が期待され、高校教育現場からも要望のある本学の特色を生かした環境教育の充実強化が一層図られることとなります。

卒業後の進路も広がり、生命環境学科では公害防止管理者や技術士補、気象予報士、教職免許(理科)等の資格が取得でき、環境省のパークレンジャーや林野庁の森林官、学芸員、環境コンサルタント、建築土木企業、気象予報会社等多岐にわたる進路が予想され、環境マネジメント学科では教職免許(公民・商業・社会)、社会主事、学芸員、食品衛生責任者資格が取得され、環境配慮型、循環型産業、ビジネス分野への進路が予想されます。

また、広い視野で環境問題に取り組む意欲ある学習姿勢を確保するため学部共通科目を配置。専門教育への動機付けを図り、専門科目、フィールド実習、実験、演習等教育課程にもきめ細かい工夫がこらされています。

このように、学園は本学にして初めて可能となる教育研究の開発により、激変する環境に対応する努力を続け、不断の自己検証を行ない、改革への強靱な意志をもって、受験生や学生のニーズに応える教育を推進しなければならないと考えています。

皆さまからのより一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

キャンパスレポート

第一線で活躍する4氏が来学 講演会・セミナーを開催

「現在のアフガニスタン情勢から
— “命の水” を確保せよ」

ベシャワール会現地代表 **中村 哲氏**

混乱が続く中東情勢の現地からの声に耳を傾けようと、ベシャワール会現地代表の中村哲医師の特別講演会が10月19日、黒澤記念講堂において学校礼拝の一環で行なわれました。



中村氏はベシャワールで医療活動を続けており、講演では同会の活動を紹介しながら、報道では伝えられない現地の厳しい状況を説明。「困っている人のために何かしたいと活動してきたが、本当に助けられたのは自分だったのではないかと20年間の活動を振り返りました。

http://www.rakuno.ac.jp/news/200410/news_22.html

「あなたは世界を善くする力と使命を持っている—現代世界の最前線で酪農学園大学の学生に期待するもの」

作家 **犬養 道子氏**

キリスト教特別講演会が11月5日、黒澤記念講堂で開かれ、犬養道子氏の講演に学生等約300人が参加しました。



犬養氏はアフリカでの自らの体験談を織り交ぜながら、アフリカをよくしようと人類が科学の力を振った結果、土に深刻な被害が残ったことを述べ、「自然という無限なものに対して自分たちの持つ力がいかに小さいかを知ってほしい。この大学は神に任された大地の管理者である」と学生たちに呼びかけました。

http://www.rakuno.ac.jp/news/200412/news_28.html

「自分の生き方と他者の生き方を
結びつけて生きるために」

茨城県牛久教会牧師 **吉田 良行氏**

秋のキリスト教教育強調週間特別礼拝が10月26～28日、黒澤記念講堂で開かれ、牛久教会牧師の吉田良行氏が講演しました。



アイメイト協会（前東京盲導犬協会）常任理事でもある吉田氏は、全盲となった現在も、最初の盲導犬飼育奉仕者として、同協会設立者の塩谷賢一氏を支えながら活動しています。その活動を通して自らが感じたこととして「視野の広い自立した人間になってほしい。そして他者を支えられるようなすべを身につけてほしい」と優しく語りました。

http://www.rakuno.ac.jp/news/200411/news_24.html

「今日の消費者問題—食の安全から食卓の安心へ—」

雪印乳業(株)社外取締役 **日和佐 信子氏**

食品流通学科セミナーが11月13日に行なわれ、講師の雪印乳業(株)社外取締役の日和佐信子氏が「食品の安全」をテーマに講演しました。



日和佐氏は全国消費者団体連絡協議会事務局長等を経て、2001年に同社の社外取締役に就任。講演では、食品安全基本法の内容などを紹介し、食に関するあらゆるリスク情報の開示が重要であるとしながらも、それらを確認な情報とするための消費者の冷静な判断も必要であると訴えました。

http://www.rakuno.ac.jp/news/200411/news_26.html

産業教育功労者大臣表彰 学園関係者3名が受賞

文部科学省は産業教育120年を記念して、産業教育に長く従事し、その発展に寄与した方々を産業教育功労者として文部科学大臣表彰し、酪農学園関係者から3名が受賞。11月25日に東京都で開かれた120年記念式典の席上で表彰されました。

受賞したのは、教職センターの長谷川豊教授、元農業経済学科教授の角田順三氏、元酪農学園理事の床鍋繁則氏の3名です。

クリスマス礼拝が 行なわれる

昨年12月、待降節を迎え、学園内でクリスマス礼拝が行なわれました。

10日には、北光寮・創世寮・カナン寮の3寮合同クリスマス礼拝が開かれ、キャンドル点火や聖歌隊の合唱などが催されました。

14～16日に開かれた学校礼拝では、とわの森三愛高等学校ハンドベルクワイアの生徒が演奏し、そのきれいな音色に参加した学生らは静かに耳を傾けていました。

そして24日には教職員によるクリスマス礼拝・祝会が、永年勤続者表彰式とあわせて行なわれました。あいさつに立った平尾和義理事長は、表彰者をはじめ全教職員に対して感謝の意を述べ「経営環境が厳しく、前進するには多くの課題があるが、良い教育の実践、それに伴う人材育成のため、一致協力し共通意識を持って改革していく必要がある」と呼びかけました。



学園トピックス



大学・大学院・短期大学部

「実践酪農学コース」 来年度から酪農家で1年研修

建学の精神を徹底し、酪農後継者を育成しようと、今年度より酪農学科に「実践酪農学コース」が新設されました。今年度中は主に学内での講義で畜産生産に関する知識を学び、いよいよ来年度からは計1年間の実地研修を開始します。1年以上におよぶ長期間の研修を行なうのは、全国的にも珍しいことです。

対象は、後期の授業「実践酪農学演習」を選択している1年目の学生22人のうち、希望する約10名。'05年4月からの半年と'06年9月からの半年の計1年間、浜中町と鹿追町の酪農家に一人ずつ派遣し、実際の酪農の現場を体験させます。研修中は、毎日レポートを作成し、電子メールでやりとりして遠隔授業を行ないます。

学生が「実学」を体験し、そして高い知識と技術を身につけた即戦力となることが期待されます。

江別農業づくり交流会開催

江別農業づくり交流会が11月6日、本学の教員7名および学生6名、江別市の農家有志29名、江別市役所から7名、さらに草野作工(株)の3名が参加して開催されました。

酪農学園が江別に設立されて70年以上経過したのを機会に、江別のために役立ちたいと、学園内に14名の教員からなる「江別農業を支援する会」が昨年3月に発足。その後、江別市議会春日基議員(短酪Ⅱ・昭48卒)と市の農業振興課の協力を得て、第1回目の会合となりました。

当日は、江別の農業づくりのヒン

トを広い視野からみるために、草野河畔林トラスト財団の「しのつ河畔林」、ガラス工芸作家の米原真司さんの工房での実演、八幡地区にある農産加工場「手作りの里」を見学し、これからの農業にはランドデザインが必要であると実感しました。

その後の農家との交流会では、早い時期に具体的なアクションを行なうことを合意しました。



http://www.rakuno.ac.jp/news/200411/news_23.html

新潟県中越地震 ボランティア報告会を実施

10月23日に発生した新潟県中越地震の災害ボランティアに参加した学生が11月3日、学生ホールで報告

会を行ないました。

地震発生直後、ボランティアに参加しようと自主的に集った学生22名が現地に赴き、家屋の片付けや物資の配給などの活動に従事しました。

報告会は12人の学生有志によって開かれ、現地の状況を写真やビデオを使って紹介し、ボランティアのあり方や復旧作業の改善点など、9人が各々の視点で報告しました。



http://www.rakuno.ac.jp/news/200412/news_27.html

今回の新潟県中越地震では、学生たちによって義援金の呼びかけも行なわれました。

●キリスト教NGO論ゼミ

104,389円を日本赤十字社新潟県支部に寄付

●学生ボランティア関係者

11,003円を新潟県災害対策本部に寄付

2004年度課外活動表彰(第1回)

ソフトテニス部	第36回 北海道秋季全道学生ソフトテニス大会	団体男子 3部優勝(2部昇格) 団体女子 3部優勝
男子バスケットボール部	第51回 北海道地区大学体育大会	第2位
ラグビー部	第6回 北海道地区大学セvensラグビーフットボール大会	1部優勝
柔道部	第51回 北海道地区大学体育大会	団体第2位
バドミントン部	第46回 北海道学生バドミントン秋季リーグ戦大会	男子 3部Aブロック優勝(2部昇格)
陸上競技部	第51回 北海道地区大学体育大会	男子 総合優勝
少林寺拳法部	第35回 北海道学生大会	池田 真也 自由単独演武 男子初段の部第2位 北川 進一・目見 暁 自由組演武 男子式段以上の部第2位
	第25回 少林寺拳法北海道大会兼全国大会北海道予選会	石田 博昭・菅谷 靖久 一般初段の部第1位
軟式野球部	第11回 春季リーグ戦大会	1部第2位
	第11回 秋季リーグ戦大会	1部第3位
アーチェリー部	第28回 北海道学生アーチェリー秋季インドア大会	伊藤 涼太 第2位
	第33回 男子王座決定戦	久保 宏行 第2位
弓道部	第51回 北海道地区大学体育大会	団体男子 優勝
	第51回 全道学生弓道選手権大会	熊坂 亜祐希 第2位
基礎スキーサークル	第31回 全国学生岩岳スキー大会	三岡 広太 第2位
女子バレーボール部	第51回 北海道地区大学体育大会	第3位
Table Tennis Club	平成16年度 秋季全道学生卓球選手権大会	岡田 はるか 第2位
	第74回 全日本大学対抗卓球大会北海道予選	岡田 はるか 第2位
梁川 正重	第59回 国民体育大会秋季大会 馬術競技	北海道代表選手
川畑 由夏	第59回 国民体育大会秋季大会 馬術競技	北海道代表選手
伊藤 愛	第59回 国民体育大会秋季大会 ホッケー競技	北海道代表選手



とわの森三愛高等学校

恒例になったコンサート

本校PTA主催の「パイプオルガンとフルートの夕べ」が12月9日(木)に催されました。白い大地にイルミネーションライトが点滅するアドベントにふさわしい音色が響

きわたり、素晴らしいコンサートになりました。歴代の札幌コンサートホールの専属オルガニストを招いて4年目の今年は、第7代の専属オルガニストであるマテュー・マニュゼスキー氏と有名なフルート奏者である阿部博光氏のソロおよびアンサンブル演奏で約300名の保護者・市民の方々の心をとらえ、大いなる感動が起きました。このようなコンサートが開催できるのは、熱心なPTA会員の教育に対する協力と、

各演奏家の情熱の結晶でしょう。とわの森三愛高校のこのような取り組みが伝統となっていくことが求められています。



記念すべき20回目の欧州研修旅行

教諭 田村 敬子

酪農経営科の欧州研修旅行が、10月29日から11月12日までの2週間にわたって実施されました。

今回の旅行は、デンマークでの酪農研修20周年を記念して、デンマークの農林漁業省を表敬訪問することになりました。また、北海道知事



の親書を届けるという役割も担い、さらに、日本大使館を訪問するという、今までにないプログラムが盛りだくさんの旅行でした。出発前は、その大役がしっかり果たせるか心配しましたが、生徒たちは日本の大使として役割をしっかりと果たしてくれました。それぞれの訪問先では、デンマークの農業事情などについて説明を受け、良い学びの時を持つことができました。

4泊5日の酪農実習では、日本との言葉や文化の違いに戸惑いながらも、実習先の家族の温かさに触れ、片言の英語とデンマーク語、そして気持ちで自分の意思を伝えながら立派に実習を行ないました。

その後のローマ・パリの観光ではデンマークでの緊張もほぐれ、歴史や文化遺産にびっくりしながら、日本との違いを実感し、視野を広げました。

2週間の長旅でしたが、3年間共に過ごした仲間との、一生忘れることのできない、楽しい学びの時間だったと思います。



普通科2年生修学旅行

教諭 龍 聡己

10月22日から27日までの6日間、「歴史に現在を刻もう～未来のために 私達のために 平和への基盤作り～」をテーマとして、普通科2年生の修学旅行が行なわれました。

前半の奈良では、東大寺の大仏や春日大社、薬師寺を巡り、また京都では班ごとに自主研修コースを設定し、金閣寺や清水寺、二条城などを巡りました。日本の伝統や文化、

歴史に触れ、それぞれに興味や関心を満たすことができました。

後半の沖縄では、平和学習を中心としたプログラムを実施しました。沖縄キリスト教短期大学では礼拝を守り、沖縄戦を体験された金城重明先生のお話を伺いました。金城先生の語る戦争の現実と悲惨さに、生徒たちも涙を浮かべながら聞き入っていました。また、米軍嘉手納基地を一望できる安保の丘、ひめゆりの塔、旧海軍司令部壕なども見

学しました。日ごろ体験できないマリンスポーツも堪能し、有意義な修学旅行となりました。



活躍する同窓生 Vol.12



農林水産業を岩手県のリーディング産業に

岩手県農林水産部 農業振興課 総括課長 及川 傅弘 さん

酪農学科 1969（昭和44）年卒業

岩手県盛岡市に岩手県庁の及川傅弘さんをお訪ねしました。

岩手県は、四国4県に匹敵する本州最大の県土地面積152万8千haを有し、地域ごとの条件や立地特性を生かした多様な農林水産物を生産しており、2003年度の統計では農家戸数は72,080戸、うち87%を兼業農家が占めています。

及川さんは、岩手県の特徴を生かした農業経営によって農林水産業を岩手県のリーディング産業として再構築するため、地方行政の立場から陣頭指揮を執る行政マンとして活躍しています。

Q. 国際化の中で岩手県農業の施策をどう考えますか。

A. 国の施策と同様、外国と競争できるように、大規模農家を育てること、個別で対応できない場合は、地域でまとまって法人化するなどを進めています。岩手県の場合は、山間部で大規模化できないなど国の施策から漏れてしまうところをどうするか大きな課題です。そこで、一人ではなく地域で役割を分担して行なう地域ぐるみ農業の提案と、担い手の確保・育成、岩手の個性を発信提案する取り組みとしてグリーン・ツーリズムの推進などを考えています。

Q. 地域ぐるみ農業実現のためには、苦労も多いと思いますが。

A. そうですね。地域でまとまるためにはリーダーが必要です。そこで、リーダー育成のために、岩手大学と産学官連携で岩手県農業者トップスクールを昨年から開催しています。このスクールは、認定農業者とそれを志す人を対象に募集し、毎年6月から1月まで月1回程度、経営戦略などを学びます。昨年70人、今年は49人が受講しています。



岩手県農業者トップスクール

Q. グリーン・ツーリズムは都市に住む人々からも注目されていますね。

A. グリーン・ツーリズムは、農村漁村地域で、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型余暇活動のことで、都市に住む人々に、体験を通して農業にふれ、農業や農村の伝統食などの食文化を知ってもらうこと、農村からの情報発信の機会でもあります。

窓口としていわてグリーン・ツーリズムサポートセンターを開設し、また、平成12年には青森・秋田・岩手の3県で、東北北3県グリーン・ツーリズム推進協議会を設立し、共同で活動を展開しています。



もう一つのふるさと探し

Q. 岩手農業活性化のための次のステップをどう考えますか。

A. 農業活性化のためには、担い手が必要です。今は就職しない若者と、働き手を必要としている農村のミスマッチが起きています。これを解決するためには、農業を魅力あるものにしなければなりません。そのために①もうかる産業にする。農産物をただ収穫して出荷するだけでなく、生産からマーケティングまでの流れの中で、ブランド化など差別化を図り付加価値をつけること。岩手の売

りは何か、の認定制度をつくることが必要と考えて、現在プロジェクトを進行中です。②誇りをもつこと。種まきから収穫までやってみないと農業の良さ、喜びはわかりません。グリーン・ツーリズムなどを通して食育を行ない、農業哲学を教育し、理解すれば必ずや未来産業へとつながっていくと思います。

Q. 酪農学園大学で学んだことが、考え方に影響を与えたことは？

A. 大いにあります。酪農学園大学で学んだことは、私の考え方の基本になっています。故田垣住雄教授から教えられた草地農業、エネルギー循環、つまり太陽エネルギーを受け、光合成により草がエネルギーを固定し、それを家畜が食べて乳と肉に変え、排せつ物は土に戻して循環する。それを繰り返す。建学の精神でもある健土健民が原点で、古臭くても結局そこに帰っていくのだと思います。

Q. 酪農学園に期待することは？

A. 実学教育、現場主義、実際に汗して働く人の意見はとても大事なので、地に足をつけた考え方ができる教育をこれからも期待しています。

Q. 同窓生・在校生へメッセージを。

A. 自分の得意分野を生かすために、その周辺の事柄もぜひ勉強してください。そのことによって信じる道が開けると思います。不得意と思っても挑戦する気持ちが大切です。



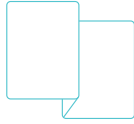
プロフィール

1946年7月20日生まれ。58歳。

家族：妻と2人の子供の4人暮らし。

週末は、実家で両親の農業を手伝う。

趣味：サッカー観戦。



同窓会だより

新年おめでとう
ございます。

◆◆ 札幌支部同窓会 ◆◆

札幌支部総会が9月25日、新札幌アークシティホテルで2004年度役員・代議員が出席し開催されました。高橋節郎同窓会連合会長と支部長のあいさつ、報告事項、審議事項は活発な意見交換がなされ、すべて承認されました。総会終了後、懇親会が開かれ、和やかな雰囲気でした。

◆◆ 機農高校9期同窓会 ◆◆

機農高校9期同期会が10月11、12日に虻田郡洞爺湖温泉で開催されました。生涯教育講座では同期生の畑中 秀氏が『食は香辛料にあり』という演題で講演されました。講演は、長い歴史の中で、その民族に愛され親しまれてきた食材や調理法を重んじて、伝統と個性に満ちた昔ながらのかけがえのない味の食習慣を守り、心豊かに健康的に生きることに力点を移してみよう……に始まり、日本古来の食品についてお話されました。最後に酪農学園で学んだいろいろなことを思い出し、この講演を参考にして、残りの人生を大いに楽しもうではないか、お互いに元気で、また会う日を楽しみにしよう、で終わりました。

◆◆ 獣医学科26期同窓会 ◆◆

獣医学科26期の10周年同期会が10月23、24日に行なわれました。初日は黒澤記念講堂で山口博教授の司式による記念礼拝を行ない『一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが死ねば多くの実を結ぶ』の説教をしていただきました。新設された附属動物病院の門戸に印された言葉であること、同期の集いが今後も継続されることを再

同窓会事務局では、今年も卒業生と学園との連携を強め、同窓生相互の交流に努めたいと思っております。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

酪農学園同窓会連合会事務局

認識しました。中出哲也助教授の案内で病院見学し、10年間の学内の概況を説明いただき、最新設備、学内の変わりに感嘆しました。懇親会場に移動し、10年ぶりの再会を喜び合い、懇親会は大いに盛り上がり、次回27期会では多くの先生方との再会を切望しながら同期会を終了しました。



◆◆ 旧三愛女子高校6期同窓会 ◆◆

10月23日、札幌市で開催されました。会は永眠者に対する黙とうで始まり、出席した川端順造先生、浦部浩行先生、松田瑞子先生および同窓生の近況報告をしていただき、在学中の思い出や卒業後の話題等有意義なひとときを過ごしました。今回欠席した人のことを思い、健康に感謝し、再会を願い終了しました。

◆◆ 機農高校酪農経営科 第5期同期会 ◆◆

機農高校酪農経営科第5期(1967年度入学)同期会が10月30、31日に札幌市ジャスマックプラザホテルで開催されました。出席者は寮監とクラス担任の先生を交えて24名。先に

他界した級友に黙とうをささげた後、家族や母校の現況、地域の様子や農業の最前線の話話を語りながら旧交を温めました。懇親のうたげが盛り上がり、一同で校歌を合唱し会場を揺るがせました。次回は3年後、十勝で開催することを約して閉会しました。



◆◆ 獣医学科福島同窓会 ◆◆

獣医学科三愛福島支部同窓会が11月13日に開催され、本学より永幡肇教授が出席し『学園の概況、動向について』の講座を行ない、その後交流懇談会を行ないました。

◆◆ 育種学埼玉同窓会 ◆◆

大学・短大作物育種学研究室「育みの会」が11月13日、さいたま市で開催されました。当日は土橋慶吉名誉教授をはじめ、多くの卒業生が集まり、久しぶりに土橋先生のお話を聞いて学生時代を思い出し、和やかな雰囲気で行なわれました。今回は土橋先生の喜寿のお祝いと、卒業生である岡本吉弘講師の学位取得の報告もあわせて行なわれました。



お知らせとお願い

- * 同窓会連合会のホームページを同窓会の活動にご活用ください。
HPアドレス <http://www.rakuno.ac.jp/dosokai/iriguchi.htm>
 - * 同窓会・クラス会・その他の催事等の企画がありましたらご連絡ください。
 - * 住所変更された同窓生の方は下記のいずれかの方法で、同窓会事務局までご連絡ください。
- ※同窓会名簿は酪農学園だよりの発送、学園からの各種連絡、同窓会開催に利用しています。同窓会では、個人情報をご慎重に取り扱っております。
- TEL: 011-386-1196 FAX: 011-386-5987 E-mail: rg-dosok@rakuno.ac.jp
手紙・ハガキ: 〒069-8501 江別市文京台緑町582 酪農学園同窓会連合会事務局

酪農育英会だより

酪農育英会は1958年の設立より47年目を迎え、今年度は大学院、大学、高校を合わせて36名の学生生徒に奨学金の貸与、私費留学生10名に奨学金の給付、団体・個人に研究奨励金の交付などを行なっています。

ご存じのように、当会は経済的に修学困難で向学心に燃える学生生徒に学資の一部を貸与・給付し、社会有用の人材を育成することを目的に酪農学園創設者黒澤西藏先生と、それに賛同された方々の私財(ご寄附)をもって設立された財団法人です。

現在、育英奨学事業の運営を取り巻く環境も一層厳しさを増し、限られた予算の中で、より良い育英奨学事業のあり方を学園、高校と相談しながら、次年度に向けて準備を進めています。

【新規募集について】

毎年4月に大学、短大、高校を通じ奨学生の新規募集を行なっています。新規に奨学金貸与を希望する学生生徒は4月になりましたら、大学・短大は学生課、高校は総務部長を通じ、採用基準など確認の上、お申し込みください。

【奨学金返還中の奨学生の皆さんへ】

住所、氏名などの変更および返還期日、支払い方法などの相談がありましたら、お気軽に本会事務局まで連絡、お問い合わせください。

財団法人 酪農育英会事務局

〒069-8501

江別市文京台緑町582番地-1

TEL:011-386-1211(午前中のみ)

スポットニュース

◆◆ 研修館に鳥類のはく製を展示 ◆◆

獣医学科の浅川満彦助教はこのほど、多くの人に見てもらおうと鳥類のはく製を研修館に展示しました。



展示したのは、外部から譲り受けた本はく製や、「野生動物学」「博物館学」の授業で学生と制作した仮はく製など約30点。このほかに館内の資料室にも多数保管しており、希望者にはそれらも含めて公開します。

浅川助教は「街中や森で見ると、実際に手に取って見るのとでは全く違う。間近で見て、触れてもらい、羽の柔らかさや体のつくりなどを知ってほしい」と話しています。

http://www.rakuno.ac.jp/news/200410/news_21.html

災害に対する酪農学園の対応

●義援金

学校法人酪農学園・酪農学園職員組合では、学内で新潟県中越地

東京事務所移転のお知らせ

酪農学園の東京事務所が12月26日付けで下記に移転致しました。

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目10-1 正直屋ビル6階

TEL:03-3508-8951 FAX:03-3508-8953

東京事務所は、主に関東圏の受験生や企業などから入試・就職に関する問い合わせが多数寄せられており、それらと本学をつなぐパイプ役として重要な役割を担っています。



所長の須田利明さん(酪農学園後援会常務理事)は、「学生の皆さんには北海道の広大なキャンパスで学び、建学の精神をしっかりと受け継いで卒業してほしい。同じく卒業生の皆さんにも三愛精神で、幅広く活躍されることを期待している。また同窓会活動にこの東京事務所を有意義に活用してもらいたい」と話しています。

編集後記

NPO法人「JRCM産学金連携センター」が昨年5月に実施した調査によると、本学のインターンシップ(就業体験)参加学生数が道内の大学で最も多かったようです。

私も短大時代に「企業実習」を経験しました。実習先は業務用食品卸の道内大手。そこで学んだことは非常に多く、社会に出て数年たった今でも、その

経験が役立っていると感じる事がよくあります。アルバイトでは得られない社会人としての心構えを身につけ、精神的に成長でき、短期間ではありましたがかけがえのない財産になったと思います。

インターンシップを経験して社会に巣立った卒業生はもちろん、これから経験する学生も、同じような気持ちを持つのではないのでしょうか。(O)

震災義援金の呼びかけを行ない、1,018,000円を寄付致しました。

●地震・台風被災地域の受験者・入学者への特別措置

1. 特別措置対象者の範囲

災害により、

- ご父母のいずれかが亡くなられた方
- ご父母のいずれかが負傷され、入院し、長期加療が必要な方
- 家計支持者の居住する家屋が全壊、または損壊により居住困難と認められる方
- 農地、家畜等への被害を受け学費支弁が著しく困難と認められる方
- その他、学費支弁が著しく困難と認められる方

2. 特別措置

2005年度入学試験の受験生に対して

- 2005年度入学試験の入学検定料を全額免除する。なお、既に出願されている場合には返還する。
- 2005年度入学試験合格者で入学手続き時の入学金は全額免除する。

3. 受付期限

- 2005年3月28日(月)消印有効

4. 問い合わせ先

酪農学園大学入試部入試課

TEL: 011-388-4138

FAX: 011-386-1220